

屋外へ掘り直せ待避壕

つに明の松濟

十六日の夜、松本藩に
留守に何れか取へたが
一茶隨のち20は過参
の御前を儀禮ととも
に送して貰つた。そ
うちでも次の二回は
幾分前泊してとて、御
膳に召されても高き／＼

軍に國出するや、他來する機微
 考へたりてゐる、海軍當局のこの
 軍機を漏れし、即日金田長に宛て
 海軍大臣に陸外へ細の取せとて、
 ひ一日早く對面せよといふ、海軍
 軍にやめる、又、海軍に、海軍
 には、

こゝで、續編をして読者はまた
なく間に合つて、煙草に煙水吸ひの邊
の感應中に飛火し多量に燃えさ
と面を立て、燃えはじめたが、
の時、その場に居る者達はかけ付け
バケツで消火作業につとめたが、
高い屋根のところに煙水が思ふ
やうにゆかず、倒す所まで達
し潤ったが見事なややつと引

ことに火は國鐵敷一面に燃びつゝ、
 火勢の回を次第に消へた。

試煉鮮かに乗切る乙女

機ひびき松葉の燒葉をつけたこと
 財に○回にわたる海松市内景文
 松では十九日更に付近に松葉
 に松葉により松葉に松葉に松葉
 を出び多大の損害を被り付近
 から松火した火災は松葉に同松
 を取り眠んでしまった、しかし

國にわたる火災の頻りに、火災の防止は、
 を加へてゐるため所の火災の防止が
 が急務として大火災となり消防ポン
 プに上る防風手籠の設置である
 た機関に警か今後かうした設備を
 備へて防風を止めたところ、火災の
 防止である

殘る

一齊歸棧よ

四周に分散待避

縣當局急速に考察

[illegible]

破壞消防の
實地指導

縣は廿二日十三時から陽明市を以て川町、三河邊を避難物として砲撃の準備を整へ待たう、これは三月九日の帝都空襲被害の大略市に對する攻撃本隊が逐日繰り出されその攻撃方法はいつても知られる。

先手の防空

敵の暴走手段を看破せよ

廣村

海軍陸軍海防部長談
國體維護を組つたものである、
では次に來るものは何か、國
までもなく交通線を閉鎖し色
の實際生活、食糧物資の缺乏
切迫することである、然しこの
私の考へてゐた交通線閉鎖は

毒血の土要攻撃

「著者 某處
終つて吾等
國權特派員
議」本の開陳
る處にうす隙の
三會兵會の中
を穿つてゐる
點を擧げてゐる
が、その點は、
その點は、その
點は、その點は、

消火器具の

不整頓
城廻
訓田

十九日の集議に松田重助の町長反